

安心で安定した給水の持続に向けて

水道の目標は「安心」「安定」「持続」がキーワード

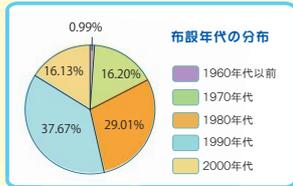
那覇市の水道事業は、本土復帰から現在まで配水池7か所、ポンプ場3か所、約800kmの水道管を整備してきました。

今後、上下水道局では水道施設の資産を効率よく管理・運用していくために、3つのキーワードを基本として更新に努めていきます。

- 安心** …利用者が安心しておいしく飲める水道水を供給
- 安定** …いつでもどこでも安定的に生活用水を確保
- 持続** …運営基盤の強化及び災害対策等の充実

那覇市の水道管は、本土復帰からこれまでの計画的な整備によって、漏水や破裂事故などは減少しています。

しかし、水道管の法定耐用年数は40年とされており、今後管の老朽化が進むことから将来においても健全な施設維持のため、計画的な施設更新に努めていきます。



また、上下水道局では、地震等における被害を最小限とするため、配水池、ポンプ場や基幹管路(口径300mm以上)など重要な施設について耐震化を行ってまいります。今年度から、配水支管(口径250mm以下)についても耐震性のある管を使用していきます。

- **配水池及びポンプ場**
水道施設耐震診断の結果をもとに、耐震補強を行ってまいります。
- **基幹管路(口径300mm以上)**
地震により被害が想定される管で、断水の影響が大きい順に更新(耐震化)を行ってまいります。それ以外の基幹管路については、法定耐用年数をめどに更新(耐震化)を行ってまいります。
- **配水支管(口径250mm以下)**
液状化などの地盤条件が悪い地域にある管については、法定耐用年数をめどに更新(耐震化)してまいります。地域環境、道路状況、埋設状況によっては適宜対応してまいります。

「安心」「安定」「持続」の3つのキーワードを実現するために
水道施設の更新(耐震化)には、莫大な投資が必要です。そのため、水道施設の重要性・影響度・埋設環境などさまざまな状況を考慮し、中長期的視点から更新(耐震化)に努めます。

【お問い合わせ】 工務課 ☎ 941-7807

水を使った涼み方

打ち水の効果

日本の風習で、道路や軒先に水を撒き周辺を涼しくしたり地面の埃などを抑える効果があるといわれています。

打ち水によって涼しく感じるのは**気化熱**(蒸発熱)のためです。気化熱とは、水が気体になるときに周囲から奪う熱のことです。つまり、打ち水をして撒いた水が気化する(水蒸気になる)ときに、地面や周囲の熱を奪うため涼しくなったように感じるのは、

一般的には打ち水をする、1~3℃の気温を下げる効果があるといわれており、昼間の暑い時期よりも午前中や夕方に行う方が効果的なようです。

最近では、市町村や地域の取り組みとして、一斉に打ち水イベントを行っているところもあふります。ご家庭で試される場合には、使用する水は**水道水ではなくお風呂の残り湯や雨水などの水を利用**するとよいでしょう。



※「霧の噴水」は、12:00~18:00まで5分おきに1分間霧が発生します。

10月とはいえ、まだまだ暑い日が続きます。残暑を乗り切るために水を使った涼み方についてご紹介します。

気化熱のしくみ



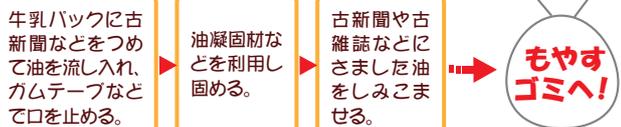
また、写真のように水を霧(ミスト)状に細かくして噴射することで、周辺の気温を下げる装置も見かけるようになりました。このような装置も打ち水と同じように気化熱を利用した冷却効果があります。見た目にも涼しさを体感できるものです。

那覇市内では、おもろまち駅前広場に「霧の噴水」がありますので、一度行かれてみてはいかがでしょうか?

打ち水を使って残暑を乗り切りましょう!!

使い終わった食用油の上手な捨て方

使い終わった油を流しや公共下水道にそのまま流してしまうと宅地内の排水管や公共下水道管の「つまり」・「悪臭」の原因となるばかりではなく、下水処理場の処理機能を低下させ、場合によっては、処理水の放流先である**海や川の水質**にも**悪い影響**を与えてしまいます。



油のついた食器は、使い終わったキッチンペーパーや古新聞でふきとってから洗うと油も流れず、食器洗いも楽になり節水にもつながります。

※グリース阻集器を設置されている事業場のみなさまは、定期清掃を忘れずをお願いします。

~海や川、下水道をいっしょに守っていきましょう!~

下水道の工事について

管更生工事



下水道とは、私たちの家や学校などから出る汚水をきれいにして海に流したり、街に降る雨水を速やかに河川や海に流すための施設です。

下水道管が古くなってくると、強度が下がり、ひび割れや破損が起きることがあり、そのまま放置していると、破損部に周辺の土砂が流れ込み、舗装下に空洞ができて道路の陥没事故を引き起こす危険性があります。また、大雨が降り破損箇所から大量の雨水が入り込むと、下水道処理施設へ処理できないくらいの水が集まるため、処理場の機能がマヒしてしまいます。

そこで、上下水道局では順次古くなった下水道管の改修工事を行っています。

下水道管の改修工事の代表として、道路に穴を掘って古い管を取り出し、新しい管を入れ替える「敷設替え工事」と古い管の中にパイプを引き込み、新しい管を形成する「管更生工事」の二つがあります。

今回は、「管更生工事」の施工方法について一例を紹介したいと思います。

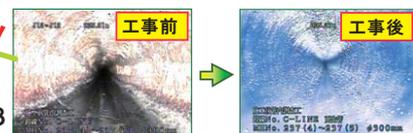


管更生工事 既設管への引き込みの様子

管更生工事の施工方法手順とは・・・

- ① 既設管への引き込み**
マンホールからマンホールへ、ウィンチを使って既設管の中に新しいパイプを引き込みます。(図1・写真上)
- ② 蒸気加熱で円形復元**
地上の蒸気ボイラー車からパイプ内に蒸気を送り込み、パイプを加熱して円形に復元させます。(図2)
- ③ 圧縮空気により既設管と密着・冷却**
エアコンプレッサーからパイプ内に圧縮空気を送り込みパイプを冷やしながらか既設管と密着させます。(図3)

新しい下水道管が完成!!



【お問い合わせ】 下水道課 ☎ 941-7808